

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
株式会社ベビーサポート 児童発達支援 ASWITH		R8年 2月 24日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	5	空間に対して動線に物をおいていないため、怪我の防止につながっている。	個別で落ち着いて遊ぶ環境が必要。狭いが広すぎても職員が目が行き届かないことが考えられるため、見極めが必要。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	3	児童 1 人に対して必要に応じて職員が 1 名ついている。 職員同士で声を掛け合い、動きの共通化が図られている。	現状の人員では不足を感じる場面が見受けられる。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	3	掲示物を極力省き、視覚的に注意が散漫になりにくいよう配慮している。	給湯器の設置、おむつ交換の空間分けの必要性あり。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	1	日々、業務終了後に清掃を行っており、清潔に保たれている。 児童の来所 30 分以上前を目安にエアコンを上げて室温の調整を行っている。	冬にお湯が出ないため、拒否につながりやすい。 。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	1	個別に訓練を行う際やクールダウンが必要な場合に個別の部屋を使用している。	職員の病欠などにより人員が少ない際は使用することができない時がある。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	3	課題のある児童に関して職員間で対応を共有することができている。	見直しまでに時間を要することがある。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	1	LINE など気軽に連絡を取れる窓口を設けている。	より時間の確保を行い、保護者のニーズを確認し、職員間でのすり合わせを行う。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	2	業務の中で必要に感じたことや必要な物品等に関しては職員間で話し合い、支援の改善を行っている。	今後も継続して職員の意見を反映し業務の改善を図る。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	4	監査等を通して指導や指摘を受けた点を周知している。	今後も継続して職員周知を行っていく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	2	定期的に職員研修を行い、虐待防止などの知識を深めている。	事業所内だけでなく、外部の研修にも積極的に参加する。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12	0	リタリコ、個別支援計画などから公表を行っている。	公表した内容から改善点を募り、常に改善を行う。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12	0	個別支援計画、アセスメント、モニタリングを定期的に各児童に対して作成している。	今後も継続して保護者との面談などコミュニケーションの機会を設ける。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12	0	個別支援計画案を作成し、本案前に職員間で検討を行っている。	職員会議を行い、内容の周知と、支援内容のすり合わせを行う。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12	0	個別支援計画作成、サインを頂いた後、回覧を行い、職員周知をしている。	回覧のみでなく、職員会議を行い支援内容の方向性を定める。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12	0	日々の支援経過を通して児童の様子の変遷を確認を行っている。	今後も継続して支援経過の記入を行い、すぐれた情報の確認を取れる環境を維持する。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11	1	5 領域の分類を行い適切な支援を心がけている。 モニタリングを行い、都度支援内容の設定を行っている。	今後も全ての項目にあげ、都度支援内容の設定を行い保護者と共有を図る。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	2	職員間で相談を行い、月案の立案を行っている。	活動内容が単調にならないよう日々工夫を行っている。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12	0	毎月作成を行っており、専門職による集団訓練などバリエーションを持たせている。	今後も季節のイベントを取り入れるなどの創意工夫を行う。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	11	1	集団活動、個別活動どちらも場面に合わせて取り入れている。	今後も場面や状況、児童の様子に合わせて活動の内容を更新する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	2	その日行う活動の内容を朝確認し、必要な役割を分担などを行っている。	臨機応変に対応し、都度役割の交代を行う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	5	必要に応じてその都度その場にいる職員で話し合い、結果を他の職員へフィードバックしている。	現在その日ではなく、翌日の朝に行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12	0	各児童1人1人に対して記録を残しており、常に振り返ることができる。	今後も現在の体制を維持し、その日に記録を残すよう徹底する。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12	0	半年おきにモニタリングを行っており、その際各専門職、保育士など多角的な視点で行っている。	モニタリングをもとに計画書の見直しを行う。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12	0	各職員と話し合い、児童の変化や困りごとなど、必要な情報を共有したうえで参加している。	引き続き職員1人1人の児童に対する認識を共有し誰でも参加できる状態にする。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11	1	担当者会議の場において関係機関と連携し情報交換を行っている。	今後も担当者会議だけでなく、日々の支援の中で生じた伝えるべき事項は密に連絡を取り、情報共有を行う。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11	1	担当者会議等の場において関係機関との情報交換を行っている。	支援内容の共有のため、適宜関係機関と連携を取り取る。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	2	移行に必要な情報に関しては共有を行っている。	今後も継続して行う。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	6	必要に応じて連絡を行い、相談、助言を頂いている。	今後も継続して行う。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	7	送迎時などに児童に関する情報交換を行っている。	交流の場が設けられるよう検討する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12	0	連絡帳やLINE、送迎時など積極的にコミュニケーションを取り、情報共有を行っている。	今後も現在の体制を維持し、保護者との連携を密に行う。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	6	情報提供に関しては積極的に行っている。	研修の機会に関してはあまり実施できていないため、個別訓練の見学などを勧める。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12	0	入所時に重要事項など共に読み上げを行い、説明している。	今後も継続して行う。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12	0	計画書作成時は必ず対面での説明を行い、内容に関して誤解の無いよう擦り合わせを行っている。	今後も丁寧に説明を行う。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12	0	対面での読み上げを行い、疑問点などないかを確認を行っている。	今後も丁寧な対応を行う。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12	0	保護者からの質問や要望などがあった際は希望に応じて面談を行っている。	今後も要望があった際は可能な限り答える。

	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	6	保護者同士の交流の機会は遠足などのイベントの機会を設けている。	保護者会に関しては開催には至っていないが現在企画中。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12	0	保護者連絡があった際は担当者が返答を行う体制としている。	今後も丁寧に対応を行う。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	12	0	連絡帳、ブログを用いて活動内容の発信を行っている。	引き続き情報発信を行う。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12	0	管理している保管庫は鍵をかけられる物を使用しており、取り扱いは厳重に行っている。	今後も継続して現在の体制を維持する。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12	0	分かりやすい文章を発信し、どのように発信したのか分かるよう文面を残している。	今後も継続して行う。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	8	週末に行われる地域イベントの参加を行うようにしている。	地域全体に向けたイベントは行っていないため、今後検討する。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12	0	各部門に職員を配置し、委員会を設立。一定期間ごとに研修を行い、連絡帳を通して周知している。	今後も継続して現在の体制を維持する。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12	0	BCP策定済み。月に1回避難訓練を実施している。	今後も定期的に実施し、職員、児童共に防災意識を高める。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12	0	児童の持病については入所時に聞き取りを行い、職員周知を行っている。また、服薬の必要がある場合は与薬依頼書に記入して頂いている。	今後も児童の健康状態に気を配り、変化があればすくに対応する。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12	0	食物アレルギーのある児童をリストアップし、表を作成、目に入りやすい場所に掲示を行っている。	今後も職員間で周知を行う。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12	0	危険なハサミやカッターなどは児童の手が届かないロッカーの中に保管するなど安全に対する環境を整える。の配慮は行っている。	今後も現在の体制を維持し、安全に過ごせるよう環境を整える。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12	0	児童の安全確保は第一に行っており、危険な行動が見られた場合は保護者へ連絡している。	保護者連絡は密に取り、日々安全に過ごせるよう配慮する。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12	0	ヒヤリハットが起きた際は報告書を記入し、閲覧するようにしている。	今後も職員会議等話し合いの場を設ける。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	1	虐待に限らず、定期的に研修を行い、日々の業務の中でふさわしくない行動がないか検討している。	今後も継続して取り組む。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	12	0	緊急やむを得ない場合は身体拘束を行うと入所時の説明の際に伝えている。また竿の際に同意を得ている。	今後も継続して行う。